

令和4年度 近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会 会議記録

1 開催日時 令和5年3月23日(木) 13時30分から15時30分

2 開催場所 近江八幡市総合福祉センターひまわり館 研修室2,3

3 出席委員等

<委員(敬称略・順不同)>

秋村 田津夫(近江八幡商工会議所 常議員)

伊崎 葉子(NPO法人ほんわかハート 理事長)

岡 敦哉(近江八幡金融協議会/滋賀銀行八幡支店 支店長)

大野 きよ美(オレガノ代表)

白須 正(龍谷大学 政策学部 教授) ※座長

土井 勉(一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長)

(欠席) 江南 仁一郎(近江八幡市 副市長)

<事業担当課・事務局>

浪江 尚史(総合政策部 部長)

眞野 善博(健康推進課 課長/0次予防センター長)

南 まゆみ(健康推進課 参事)

土井 忠史(企画課 課長)

橘 直樹(企画課 主査)

辻 仁美(企画課 主任主事)

峪 卓宏(企画課 主事)

野田 卓治(企画課 主事)

4 議事概要

以下のとおり。

1. 開会(13時30分)

○企画課 開会、進行

○座長 挨拶

○企画課

・新たに就任される委員の紹介。

⇒滋賀銀行八幡支店長の人事異動に伴う就任。

- ・江南委員が他公務のため欠席を報告。
- ・配布資料確認。

※以降の議事は、設置要綱第5条第2項の規定により、座長が進行。

2. 事業説明、質疑・意見交換

(1) オープンガバナンス推進事業（老蘇学区）

企画課	事業シートNo.1に基づき説明
委員	移動支援の話は、自身も専門としている分野であり、非常に興味深く聞かせていただいた。 分科会を設置するとのことであるが、分科会の構成員はどのように考えているのか。構成員によっては、中身が決まってしまうところでもある。
企画課	部会は、社会福祉協議会、農業部会では営農組合の関係者等に入っている。
委員	出来る限り、移動で困っている人の声を拾える構成員を考えた方がよい。普段、困っていない人に入ってもらっても要望ばかりが挙がり、結局、その人も乗らないといったことになるので、チーム編成について検討されたい。 また、皆さんで買い物に行かれたということだが、それ以降、継続的に利用されている方はいるのか。
企画課	アンケートを実施させていただき、数名ではあるが、そういった声を聞いている。
委員	そのような事が非常に大切である。イベントとして1回きりの参加ではなく、日常利用として、自分自身が使えるようになっていくということが大切。 もう一点は、「あらゆる世代が気軽に出会い、交流ができる」という取組と外出をカップリングしてできればよい。 2つの目的を1つの方法として展開できるようになると、地域の方々の戸惑いも無くなると思う。これらの成果は、決してCCRC的な話だけではなく、近江八幡市全体の移動支援の仕組みに繋げることができると考えている。

委員	取組の内容とオープンガバナンス事業といった名称の居心地が悪く感じる。この取組とオープンガバナンスは、少し違うのではないか。近江八幡市では、オープンガバナンス推進協議会等も実施されているので、事業の関係性を整理された方が良いのではないか。 また、新型コロナウイルス感染症により、コミュニティが縮小しており、今後、コミュニティが成立しないレベルになっていると感じる。 このような取組はコミュニティ、ふれあい創出の為には非常に有効であり、外してはならないことである。取組を進めることで、皆が絶えず交流できる機会をつくることは、疎かにされがちであるが、今の時代に求められていることではないかと考える。
委員	あかこんバスに注目いただいたことは本当に有難いことである。近くに、最近免許を返納された方がおり、「あかこんバスは自分のいのちの足である、このようなバスがある近江八幡は素晴らしい」とおっしゃっている。 あかこんバスは、将来、自分自身もお世話になる制度であると思う。是非、行政として土日運行など、この制度を充実させられるように検討いただければと思う。
委員	この事業にかかる補助金は1年で終了となるのか。
企画課	令和6年度で地方創生推進交付金の活用が終わってしまうので、別の財源を活用するのかなど、検討している。
委員	非常に大切な取組であるので、事業として発展させていただきたい。
委員	あかこんバスは、高齢の方だけではなく、子育て世代(子ども)にとっても重要な資源である。子育て世代の中でも、車に乗れる人はよいが、例えば、夫が自動車通勤などで、移動手段が無い主婦にとって、地域バスは非常に重要な交通手段である。若い世代の移動手段の議論は孤立しがちであるので、是非とも発展させていただきたい。 また、事業シートの食を通じた取組は素晴らしいと感じており、例えば、あかこんバスツアーと題して、皆で信長葱を収穫、

	試食するイベントなどもあっても良い。そうすれば、若い世代や子育て世代(子ども)の参加も見込まれるのではないかな。
委員	あかこんバスを核として、皆で色々なアイデアを組み合わせたいけるようになれば、赤こんバスの在り方も変化すると思う。
委員	コミュニティバスは、高齢の方の為のものであるというのは、固定観念である。近江八幡市では皆が車を使っているように思えるが、全体を分析すると、人口の3割程度は車を所有していない。そのような人々に移動手段を提供することが重要であり、例えば、高校生の移動手段を確保することは、将来的に人口の定着に繋がる。また、送迎が必要な子育て世帯の主婦の負担を軽減することで、主婦の労働時間が生み出され、雇用の創出など様々な可能性が広がってくる。
座長	委員の皆さまのお話を受けて、あかこんバスは非常に可能性がある、今後の事業展開に繋げていってもらいたい。

(2) オープンガバナンス推進事業

企画課	事業シートNo.2に基づき説明
委員	オープンデータの推進について、具体的にどのようなデータを公開されているのか。
企画課	現在、全部で14種類のデータを公開している。オープンデータに初めて取り組む自治体向けに国から推奨データセットが提示されており、それに従って公開している。
委員	実際にアクセスされた実績などはあるのか。
企画課	アクセス数までは、現状のカタログサイトでは把握できない。 正直なところ、オープンデータが活用されて、事業化等に繋がったといった実績は確認できていない為、データ提示の仕方や色々な部分で課題があると感じている。
委員	データをどのように活用すれば、どのようなことが分かるなど紹介をしていかなければ、提示されているだけでは、見るだけで終わってしまう。

企画課

2つ課題があると感じており、1つはオープンデータ自体が、事業者の商用利用を前提としており、CSV形式、いわゆる機械判読しやすい形式でしか提示されていないため、市民からすると見ようとする気持ちが起きないと思われる。見てみようといった気持ちになるように、見やすさを追求していくことが必要であるとする。

委員

確かに見やすさも必要であるが、データを活用すれば、どのようなことができるのか、といった視点が重要である。多少、見にくい形式であっても、データの活用によってできることが見えている方が使ってもらえるので、そういった方向に重点を置かれてはどうか。

委員

以前にエストニアに訪問したことがあり、生まれた時から、その人のデータが全てデジタル化されており、税務申告等の手続きが自動化されている。

このようなことを進めていくと同時に、自分たちの仕事に何が障害となっているのかといった観点で、沢山のアイデアを出していきたい。

委員

LINEの良いところは、個人間で色々なやり取りができるということであるが、告知にも活用でき、双方向のやり取りでなくても、繋がっていること自体が有用である。

ただし、個人の情報といったこともあり、インセンティブがないとチャットに入っていないと思う。コミュニティが形成できれば、色々なことが可能になると思うので、お金という意味ではない、インセンティブの付与、仕掛けができれば良いのではないか。近江八幡市側の目的もあると思うが、目的を達するために、まずは、繋がる必要があるとあり、入ってみようという気持ちにさせる工夫があれば、どんどん広がっていくと思う。

座長

総合戦略の位置づけでは、KPIの設定について、無いとのことだが、現状の取組について、今後、LINEの参加者やオープンデータの数、デジタル地域通貨など、どのくらい増やしていこうといった数値目標はあるのか。

企画課	オープンデータについて、次年度中に、国の推奨データセットの応用編(名称:自治体標準データセット)のレベルにまで持っていくことを目標として設定し、その他、どのようなデータが求められているのかを整理しながら、充実を図りたいと考えている。 デジタル地域コミュニティ通貨に関して、滋賀県全体で取り組んでいることもあり、近江八幡市だけのユーザー数を現状、把握することは難しい。ただし、この通貨を利用できるスポット数は把握しており、現状、市内では 120 ほどあり、約半年間で 120 ほどにできたので、年間を通して 200 箇所程にできれば、もう少し盛り上がりも出てくるのではないかと考えている。 L I N E の参加数について、何人といった目標設定は難しいところである。 先ほど、委員からあったインセンティブに絡むことだが、現状のインセンティブとは、行政に対して何か物を申せるといったところに留まっている状態であり、今後、意見やアイデアを出すことが実現に繋がったという体験が広がっていくことが大切と考えており、一つでも多くそういった実績を増やしていきたい。
委員	この事業に欠けていることは、何をするか、といった点。ツールを用いて何をするのかという問いができれば、全て繋がってくるのではないかと。問いが無い状態で、仕組みの説明を行っても、面白味に欠けると思う。
委員	データが並んでいてもそれをどのように活かすのか、分かる人は少ない。例えば、L I N E のチャットについて、参加者から意見を出してもらうことを前提に置いているのであれば、特に若い世代の発想が閃くような使いやすいデータにしていなければ、なかなか良い発想が生まれないのではないかと。
座長	事業としては意味があるので、何を増やして、活かしていくのかといった観点を明確にしていただければと思う。

(3) 近江八幡市版 ESD プログラム事業

企画課	事業シート No.3 に基づき説明
委員	E S D とは何の略称であるのか。

企画課 Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」である。

委員 印刷物(SDGs 事例集)について、市HPなどで先進的な事例等アップデートを進め、オープンガバナンス的な取組についても含めてもらえると有難い。

また、SDGs 出前講座について、行政職員も対象にされているのか。

企画課 例えば、今年度であるが、人権・市民生活課が消費者教育の一環として、本市主任主事級の職員を対象に SDGs の講座を実施した。企画課だけでなく、庁内にわたって、職員研修を実施しているところだが、来年度は、企画課が主催となって、講座を実施したいと考えている。

委員 SDGs に関して、我々の会社でも、2018 年から周知等、取組をさせていただいているところであるが、聞いたことはあるものの自分ごととして考えるといったことがなかなか進んでいない状況である。

ただ、効果については、遅効性をもって現れてくると考えており、徐々に自分ごととして浸透してくるのではないかと思う。

SDGs と聞くと、横文字になってしまい、最近、授業を受けている中学生、高校生の世代の方が理解し易いといった状況である。それ以外の世代について、実は今まで生活の中でしてきたことが SDGs に繋がっているという意識がなかなか持てていないので、そういった意味では、座学で学習するよりも、生活の中で取り組んできたことが SDGs である、といったアプローチがあるとより多くの人に受け入れられるのではないかと感じる。

(4) 近江八幡市 0 次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

健康推進課 事業シート No.4 に基づき説明

委員 健康未来食品販売事業について、商品開発もされているところと思うが、私もワンディキッチンに関心を持っており、単に健康食品としてではなく、色々な世代に必要とされていると思う。

	共働き世帯が非常に増えているということもあり、食事には苦勞されているお話も聞いているので、身体に優しい食品が地域の色々なところで提供できるようになれば良いと期待している。
委員	台湾では、高齢者介護の一環で、個別での対応は時間が掛かるため、オープンキッチンとして集まってもらい、皆で料理をして試食するという機会が設けられており、非常に楽しんで参加されているようである。日本でも、それに近い形で実施できないかと思う。 例えば、あかこんバスを活用したワンディキッチンなど考えていくと送迎の時間等を気にしなくてよく、家族の負担も軽減されると思うので、そういった仕組みを考えられるのも良いと考える。
健康推進課	0次予防センターでは、よく交通の手段が無いとご意見をいただいております、0次予防センターの前にあかこんバスのバス停があるので、先ほどのご意見をアイデアとして活かすことができないかと感じているところである。
委員	出前方式で、地域の中に出かけてくださる方法を年に何度か取っていただけないかと考えている。 共働きの家庭は忙しいこともあり、食事の準備には困っているところも多い。子育て世帯を集めて、子どもたちから試せるような食品を広めていただくことによって、将来的な健康に繋がっていく。
(5) 富士宮市合同婚活事業	
企画課	事業シートNo.5に基づき説明
委員	少子化対策といった位置づけでこの事業を展開されているが、昨今、結婚したからといって子どもを持つ世帯は減っているように思う。もう少し事業内容等(必要性)について、詳しく教えていただければ有難い。
企画課	合同婚活イベントについて、アンケートを実施したところ、実施して欲しいといった声も多数いただいている。また、滋賀県でもオンライン型の結婚相談所を設立しており、多くの登録

をいただいているところで、行政が主催であるので安心感もあると思われる。

事業の位置づけについて、少子化対策として拘っていくのか、関係人口の創出や定住移住施策として展開していくのか検討する必要があると考えている。

委員 この事業は令和4年から5年の2ヶ年で実施される認識でよいか。

企画課 認識のとおりである。

委員 マスコミに取り上げられたことはあるのか。

企画課 新聞社などから聞かれたことはある。

委員 夫婦都市である富士宮市との連携事業ということもあり、話題性がある事業と感じる。ただ、どこまで効果があるのかどうかは疑問があり、マスコミ等で取り上げられることで、こういった事業を実施されていると関心が広がるので、そういった効果も狙われているのであれば、意義があるのではないかと思う。

委員 結婚したいが、なかなか出会えないといった人も多くいるので、少子化対策を目的にするのではなくて、結婚支援といった位置づけにシフトすることもあるかどうか。

委員 回数も1回限定であるので、小規模なイベントも何度か実施するのが良いと思う。

(6) 脱炭素実行計画策定事業

企画課 事業シートNo.6に基づき説明

委員 これだけの大きい話であるので、予算をしっかりと確保され、事業の内容を充実されることが望ましいのではないかと。エネルギーコストは石油由来であるので、我々がコントロールすることは難しく、エネルギー費用の値上がりに伴って、海外に代金が流出することになる。この仕組みから離脱する方法が、エネルギーの地産地消であり、地域の産業として、どのように回していくのが目標となる。

まだまだ経営等の部分で試行錯誤が必要であるが、実際に、自治体の中でも実施されているところもあり、このような思考を事業として乗せていくような取組をしなければ、脱炭素実行計画に繋がらない。最終的なゴールとして、単に省エネを図るといった話ではなくて、新しいエネルギーを発見していくことが重要で、それを行政ではなく、事業として民間企業が主体として回していくことで、使えば使うほど、市民に還元されるといったモデルを共有していく必要がある。

委員 他の先行事例をコピーして、例えば試算なども、同じくらいの事例でどこまでできるのかなど、近江八幡市に適したものを取り入れてみてはどうか。そこまで複雑な話ではないと感じる。

座長 来年度に脱炭素実行計画を策定されるということで、その際に今の意見を踏まえて、市民を巻き込んだ中で、具体的に何に取り組むのかといった点は、先行事例も数々あるので、その中で近江八幡市に最も応用できそうな事業を考えていただきたい。

3. 全体意見交換

座長 最後に、一言ずつ総合戦略事業全体を通して、委員の皆さまからご意見をいただきたい。

委員 私の持っている知識は、次の世代には役に立たなくなっているもので、それを具材にして議論をするものである。

若い世代の方が行政にいらっしゃるのであれば、もっと自由に議論いただき、例えば、今のエネルギーの地産地消の話でも、先行事例はたくさんあり、自分の目で確かめることが大切である。

委員 本日は、皆さんの意見も活発であり、行政の方が短期間で立派な仕事をされていると感じた。

また、あかこんバスを取り上げてくださる議論を行政から提示いただいたことは大変有難いこと。これから、あかこんバスは形を変えて地域の足になっていく、なっていかなるを得ないと思うので、皆さんの取組があかこんバスを通じて地域に循環していけば良いと思う。また、近江八幡市の観光に繋がる循環

バスとして広げていただきたいと思います。

是非とも、若い世代の将来に繋がるように、それぞれの地域で一生懸命考えていただければ有難いと感じる。

委員

行政の取組をこのように知る機会を設けていただき大変嬉しく思う。

私は子育て支援を中心に活動しており、これから歳を取っていく時に、あかこんバスはもっと活用していただきたい想いがある。住んでいて楽しい、わくわくするといったところに近江八幡市の魅力を結び付けていけたら良いと思う。

委員

私も日野町出身であり、身近で憧れの街が近江八幡である。何十年ぶりに近江八幡市に戻り、地元のことをよく知ることとは大切なことだと改めて感じている。街に住んでいる人が地元のことを再発見できるようなまちづくりが今後のベースになると思う。

また、組織が大きくなると縦割りになってしまい、事業がなかなか前に進まないことがあるが、横断的に若手の世代を取り入れて、意見交換ができる体制を築いていただければ、より明るい未来が見えてくるのではないかなと思う。

委員

充実した意見交換ができたと思う。あかこんバスの議論が多くあったが、移動の仕組みは、移動そのものが目的ではなく、楽しいやおいしいといった目的とセットで仕組みをつくることが重要である。

また、エネルギーの議論もあり、非常に良かったと思う。エネルギー施策は一種の競争状態にあり、例えば林業の盛んな街であれば、木材チップを活用して発電しつつ、林業も盛んに行い、地域の雇用とするなど事例がある。

近江八幡市もそういった意味では、非常に可能性があるのですが、是非、本腰を据えて取り組んでいってもらえたら有難い。

4. 閉会

○総合政策部長 閉会挨拶

15 時 30 分を以って、令和 4 年度近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会を閉会した。

以上